



Risk Flash No.202 (Vol.5 No.44)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- グローバリゼーションの視点：グローバリゼーションの歴史に学ぶ・・・Page 1
- 研究紹介：ロバート・アスピノール・・・Page 2
- リスク研究センター通信・・・Page 2

グローバリゼーションの視点

グローバリゼーションの歴史に学ぶ

しばやまけいた
社会システム学科准教授 柴山桂太

滋賀大に奉職した14年で、私が取り組んだのは主としてグローバリゼーションの研究でした。グローバリゼーションは、最近になって始まった新たな現象ではなく、過去何度も繰り返されてきた現象でした。繰り返されたとは、その都度、何らかの理由によって終わってきたということでもあります。19世紀末から本格化した100年前のグローバリゼーションは、二度の大戦と恐慌によって終わりを迎えました。なぜ終わったのか。貿易と金融によってつながりを深める世界経済の背後で、それを破壊する諸力がどのように準備されていたのか。それが私の問題意識でした。

当初、私はこの時代を生きたケインズの視点からこの問題を考えていました。1883年に生まれ、1946年に亡くなったケインズは、まさにこの時代の終わりの時代を生きた人物でした。彼が考えた資本主義の国内・国際管理は、19世紀グローバリゼーションの失敗を踏まえたところに生まれた、というのが私の理解になります。

その後、関心が広がり、この時代から現代への教訓を読み取る本（『静かなる大恐慌』集英社新書）を書いたり、グローバリゼーションと主権国家と民主主義は鼎立できないとする本（ダニ・ロドリック著『グローバリゼーション・パラドクス』白水社）を、同僚の大川良文先生と翻訳したりしました。

今年は、この10年近くの間にかいた論文をまとめた本（『グローバリゼーションと不確実性の経済思想』ナカニシヤ出版）を出します。この本の中心にあるのは、グローバリゼーションとそれを破壊する政治的・社会的諸力の複合的な関係を、20世紀前半に活躍した経済学者（ケインズ、ハイエク、ポラニーら）がどのように捉えていたのかを辿る論考です。これを土台に、今後はナショナリズムや帝国主義の研究も行っていきたいと考えています。

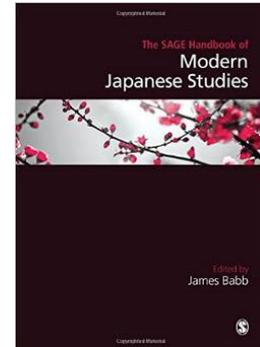
私が滋賀大学経済学部へ赴任したのは2001年でした。この14年間の間に、同僚、学生、そして陵水会の皆様からたくさんのお話を学ばせて頂き、自分の問題意識を深めることができました。4月から所属先が京都大学大学院人間・環境学研究科に変わりますが、滋賀大の方々とおつきあいを大切な財産として、今後も研究を進めていきます。どうもありがとうございました。

研究紹介

現代日本研究 (The Sage Handbook of Modern Japanese Studies)

社会システム学科教授 ロバート・アスピノール

国際的な学術出版社である SAGE 社は、2000 年より、権威ある賞の受賞歴を有する 200 以上のハンドブックを出版してきた。今年、ジェームズ・バブが監修のもと、「現代日本研究に関するハンドブック」を出版することになっている。同社によれば、本書には世界中の非常に優秀且つ多様な研究者から素晴らしい論考が寄稿されている。また、本書は、学生や研究者にとって、世界の主要国の 1 つである日本の理解の助けとなるように、正確ではあるが手取りやすい、かつ学際的な参考文献や独創性に富んだ教科書として活用できるように編集されている。



本書の構成は次の通りである。

第 1 部：領土、歴史、文化 (7 章分)

第 2 部：社会 (6 章分)

第 3 部：医学と医療 (5 章分)

第 4 部：政治と対外関係 (8 章分)

第 5 部：経済 (7 章分)

私は、「8 章 教育」を担当し、幼稚園から大学までの様々な段階における「教育を受ける側」の視点から日本の教育システムについて解説を行っている。本章では、「ゆとり教育」改革をめぐる大きな論争や、昨今注目されている「愛国心」、教育の「国際化」、そして「マイノリティへの教育」などの問題について説明をしており、日本の教育システムを理解するための重要な論考になるのではないかと考えている。

リスク研究センター通信

◆セミナーのご案内

平成 27 年 3 月 27 日 (金) リスク研究センター・経済経営研究所共催でセミナーが開催されます。

参加ご希望の方は下記 URL よりお願いいたします。

<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/5/11:13>

日時：平成 27 年 3 月 27 日 (金) 13:00~15:30

テーマ：「地震対策の評価と教訓」－福島第 1 原発 10km 圏内病院透析施設からの報告－

講師：尾澤康彰 氏 (日本透析医学会専門医、前 西病院副院長)

場所：滋賀大学大津サテライトプラザ (JR 大津駅前 日本生命ビル 4F)

司会：梅澤 直樹 教授 (本学経済学部教授)

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

**編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、菊池健太郎、
金秉基、久保英也、柴田淳郎、得田雅章、山田和代**

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局 (Office Hours:月一金 10:00-17:00)

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page : <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>